会議記録

会議件名	第４回掛川市子ども・子育て会議
日　　時	令和２年１月７日（火）13:30 から 14:45
場　　所	全員協議会室
出 席 者	子ども・子育て会議委員　16人（３人欠席） 事務局　14人 傍聴者　１人

会議の概要

１　開会
２　あいさつ
３　協議事項
(1) 第２期掛川市子ども・子育て支援事業計画（案）について
事務局より説明（質疑等なし）
(2) **利用定員について**
事務局より説明（質疑等なし）

４　その他
(1) 話題提供について
事務局より説明
質疑等
委　員：来年度の療育支援の申請提出資料に検査結果を記入する欄があるが、徳育保健センターに連絡したら今年から教えられないと言われた。数値のみで判断されては困るとのこと。園だけでなく保護者にも教えられないと言っていた。どんな経緯でどんな趣旨でそうなったのか教えてほしい。
事務局：検査結果の数字は、今年からではなく以前からお伝えしていない。理由は、数字に着目しすぎて子どもの姿に目がいかなくなるのが心配ということ。今のままでよいか数字をお伝えしたほうがよいか、健康医療課、福祉課、こども希望課で検討していきたいと考えている。
委　員：数字が一人歩きしてしまう懸念はよくわかる。園でどうその子どもにかかわったらいいのか、どう親御さんと子どものことについて話し合っていけばいいのか、就学支援にもつながっていくが、それには膨大な時間がかかる。その際、検査結果はとても大切だと思う。持っている情報を見えなくしているのはもったいない。数値だけでなく子どもを見て欲しいというのは絶対にそう。例えば同じ自閉症でもＡ君とＢ君の自閉症は全然違う。それをみんなで理解してみんなで育てていくことが時代の要請ではないかと思う。保健師さんは専門職なので我々以上に考えて頑張ってくれていると思う。でも保健師さんだけでは限界がある。園も家庭も同じ方向を向いて同じように支援していく必要がある。私たちも保護者も勉強しなくてはならない。社会みんなで支えていくことがこれから求められる。そういった時に、大元である徳育保健センターで情報を出せないと言われるととても辛い。一つの手立てがなくなるということ。これから検討するとのことだったので、良い方向にもっていってもらいたい。発達支援の子どもたちの特徴は個性の一つなので、みんなで支えていく方向に掛川市はもっていってほしい。掛川市は学園化構想で、地域みんなで子育てしようとしているのだから、片方で情報を閉ざしてしまうのはちぐはぐな感じがする。市としてどうやって子どもを育てていくかと考えたときに、同じ方向を向いてやりたいと思う。よろしくお願いしたい。
事務局：発達検査はできる職員も限られる。療育施設は増えていく傾向にあるため、利用する人が増えてくるということになると、今後の体制自体も課題の一つになってきている。その点も含め、今後協議していく予定になっているので園の御要望もいただきながら令和３年に向けて検討、調整していくことで、御理解いただきたい。
委　員：ぜひ前を向いていってもらいたい。我々も勉強していかないといけない。徳育保健センターからも、専門用語ではなくかみくだいて発信してもらいたい。育てにくい原因がわかれば落ち着く保護者もいる。みんなで理解していくことが大切だと思うので、ぜひお願いしたい。
委　員：待機児童の内訳をみると、０歳児は237人の申込で40人しか入っていない。０歳児は、子ども３人に対して１人の保育士が必要だということをみんなに知ってもらう必要がある。全員保育所に入れると60人くらい保育士が必要になるが、全員が本当に保育所が必要な子かというとそうではない。７ページに保育士等の確保と併せて施設整備等が必要ですとあるが、もっと足りないもっと足りないという状況になってしまうと思う。先日、乳幼児教育未来学会の

講話でアタッチメントやスキンシップのお話しがあったが、そのことをもっと赤ちゃんを産んだ方に伝えていき、企業にも協力していただいて、できれば１年は育休を取れる状況をつくり、早く申し込みをすれば園に入りやすいという考えががなくなり、１歳になったら園に入る掛川になってほしい。

事務局：育休明けに入りにくい状況から、申し込みの前倒しということが推測されるので、施設整備を検討している。施設整備が進み希望する時期に入れれば前倒しで入りたい方も減ってくると思う。入所の状況をみながら対応していく。

委　員：以前もらった資料で、ニーズ調査があった。就学前1,500人、小学校１～３年生1,500人が対象だった。根拠はどこにあるのか。

事務局：第１期も同様に調査を行った。これと比較できるように調査を実施した。

委　員：もっと上の学年までイメージしていた。子どもの教育とするなら、もっと範囲を広げてもよいのではないか。66ページに放課後児童クラブがあるが、３年生までしか聞いていないので、今後検討してほしい。

事務局：令和２年度からの計画で、放課後児童クラブを今後利用するかと聞いているので、小学３年生までを対象としている。

委　員：新放課後総合プランに基づきとあるが、毎年待機児童がでるだろうと感じられる。もっと行政が早めに動いていただけたらありがたい。

事務局：昨年、５月にアンケートを行ったが、いい数値が取れなかった。ヒアリング等いれながら調査を行っていきたいと思う。

委　員：待機児童対策について、市で努力されていることはわかっている上で一保護者の意見だが、育児休業の延長などでやりきればいいが、そうでない場合は退職を選ぶことになる。２年後に復職できるかというと難しいところであって、資格のある人であれば同じようなキャリア、給料で働くことができるが、そうでない場合、キャリアを失うことになる。生きがい、働きがい、家計にも影響する。保護者が選択して働かないことを選ぶのと、働けなくなってしまったので働けない人生とでは差がある。待機児童対策は前倒ししていただいて、深刻に真剣に捉えていただきたい。平成30年度の学童のニーズは、各園に出してくださっていたが、今年はそれが行われなかったところから、ニーズの読みが随分変わってきてしまったりとか、それによって待機児童が出るかもしれないということになってきていると思うので、待機児童の背景に一人ひとりの親がいて、人生がかかっているので母親が働き続けられるように、よろしくお願いしたい。

事務局：先ほど御説明した待機児童対策は、今回の計画に基づいた確保方策に則ったものとして説明した。確保方策には国定義などはないので、基本的に入所保留者全体をなくしていくという意味合いで捉えていただきたい。子育てを続ける方、仕事に復職される方、その方の選択によって、どちらか選べるというのが豊かな社会なのかなと思う。待機児童対策と合わせて、子育てにやさしい事業所も増やしていきたい。子どもの視点も大事だと思うので、子どもにとってどういうものがいいのかということで、スキンシップも進めている。

委　員：園がどんどん増えているが、保育士の確保はできているか。

事務局：お仕事応援相談会や貸付事業に取り組んでいる。新たに開園する園の事業者にも保育士確保の確認をとっている。

委　員：園を増やさざるを得ないと思うが、そこで働く保育士の質が確保できないと早期に離職する保育士が多いと聞く。離職しないような保育士を確保するということで、保育士会等の機関に加入して研鑽を積んでいただくという働きかけもしてほしい。

委　員：大学生に対してのアプローチは前からやっている。今はそれでも遅い。富士市は高校生に市と養成校と園が一体でアプローチしている。高校にアプローチして養成学校へ進学してもらえるよう、先手を打っていくことが必要ではないか。箱物はお金をかければできるが、人はそうはいかない。みんなで考えていけるとよい。

事務局：平成28年にお仕事応援相談会をやったときに県の社会福祉協議会にも御案内した中では、どうしても県が東中西で分けると掛川は谷間になってしまうので実施していただくのは大変ありがたいというお話しをいただいて、毎回社会福祉協議会も参加していただいている。貸付事業も県とタイアップして両方使えるのも、先駆的な取り組みだと思っている。ただ、これだけでは足りない部分はあると思いますので、次の取組もやっていきたい。話は変わるが、保育園の入所基準について、保育士で復職したい方については、点数を上げることも実施している。今後とも忌憚のない御意見をよろしくお願いしたい。

委　員：子育てにやさしい事業所について、今年度はどれくらい認定企業が増えたか。事業所に男性への子育て参加意識を高めてもらえるとありがたい。子育てにやさしい事業所づくりに力を入れてもらえるとありがたい。

事務局：平成29年度は19社、平成30年度は９社、今年度は12月末までで８社、３年で36社が認定されている。セミナーの開催をしていきたいと考えている。

５　閉会